

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑫

3月検針分（主に1・2月使用分）

用途別の影響

令和3年3月の検針データを前年同月と比較すると、下表のとおりとなります。

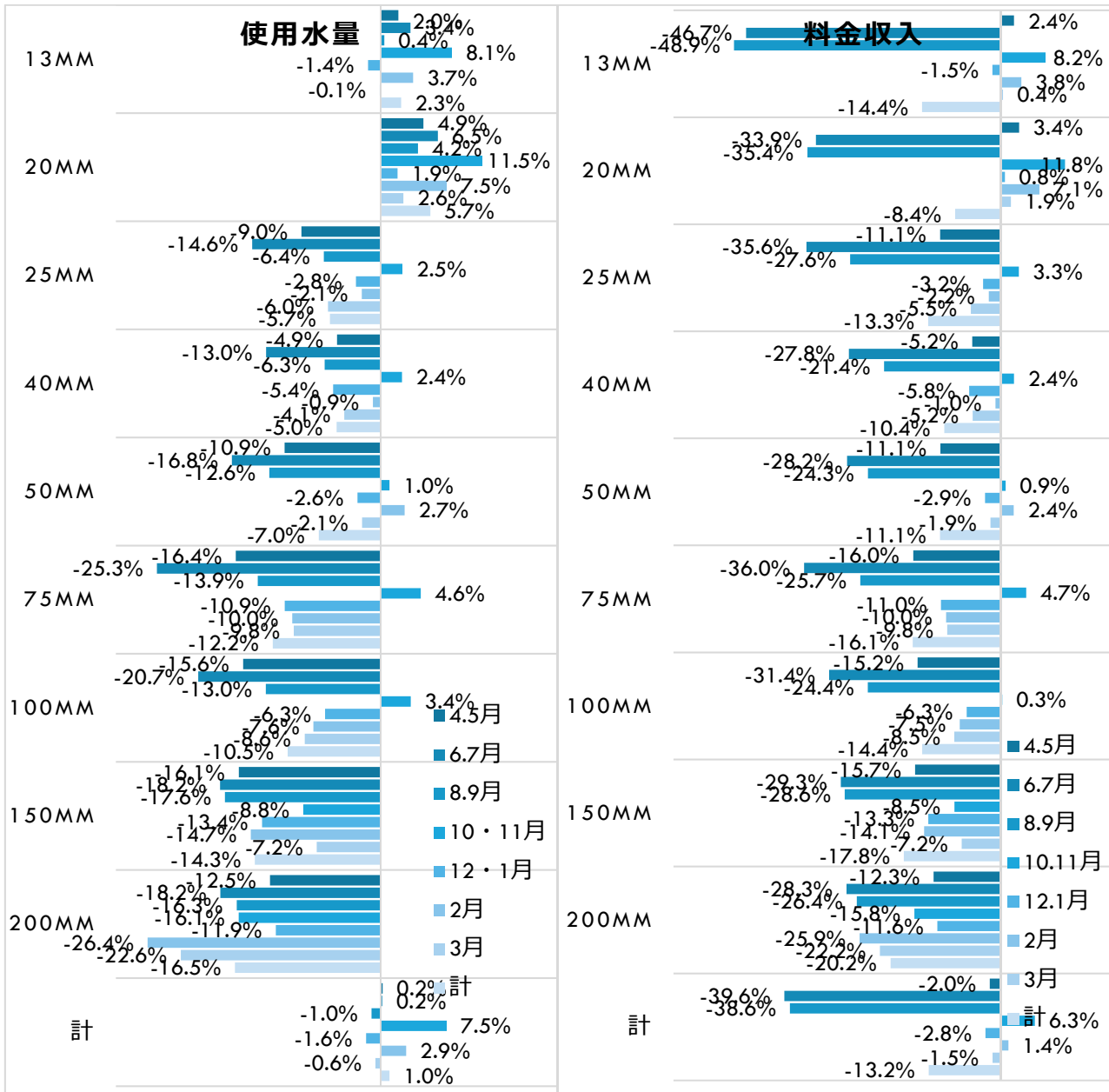
4、5月は、主に家事用の口径20mm以下のメーターでは水量、金額ともに増、主に業務用の口径25mm以上のメーターではともに減、6～9月は、全体的に水量、料金ともに減となりました。10、11月分は、20mm以下、25mm以上ともに水量、金額ともに増、12、1月分は、再び減、3月は、2月に続き20mm以下では水量、金額ともに増となりました。

料金は、25mm以下の減少分が20mm以上の増加分を上回り、約230万円、約2%の減収となりました。なお、同じ対象者の1月検針分と比較すると、使用水量146,200m³、料金約1,740万円の減少となりました。年間使用水量は、家庭での需要が増えたことにより、大きな影響はありませんでした。

検針年度	区分	3月検針分（1・2月使用分）		
		20mm以下	25mm以上	合計
R1	水量 (m ³)	1,120,048	198,576	1,318,624
	金額(税抜き:円)	110,321,865	44,810,455	155,132,320
	供給単価(円)	98.50	225.66	117.65
R2	水量 (m ³)	1,125,469	185,482	1,310,951
	金額(税抜き:円)	111,109,835	41,702,950	152,812,785
	供給単価(円)	98.72	224.84	116.57
増減	水量 (m ³)	5,421	△ 13,094	△ 7,673
	増減率	0.48%	△6.59%	△0.58%
	金額(税抜き:円)	787,970	△3,107,505	△2,319,535
	増減率	0.71%	△6.93%	△1.50%
	供給単価(円)	0.23	△ 0.82	△ 1.08
	増減率	0.23%	△0.36%	△0.92%

口径別の変動率

口径別の変化を見ると、下のグラフに表すとおり 20 mm以外の口径で使用水量が、25 mm以上で料金収入が減少しています。4月からの合計では、水量は、1.0%とわずかに前年度を上回りますが、料金は13.2%、減額措置の影響を差し引いても0.9%減少しています。



結論

使用水量合計の変動率は、△0.6%であり、令和元年度の変動率の範囲（月△4.2%～+2.5%）内となりましたが、2月に見られた回復傾向から、減少に転じました。ただし、緊急事態宣言後の1、2月の使用が反映されていますが、4月の宣言ほどの影響はなく、家庭での需要の増加も続いています。感染症対策終了まで影響を注視する必要があります。